

絵入り諷刺週刊紙の英雄時代

稲賀繁美（国際日本文化研究センター/総合研究大学院大学助教授）

1830年11月4日に発刊された『カリカチュール』紙はフランスにおける絵入りの諷刺新聞として歴史にその名を残す。政治批評はアタロッシュ、ルイ・デノワイエの筆。七月革命下に発刊された4頁の週刊紙は、廃刊までに7件の訴訟と4件の有罪宣告を受けたが、それゆえにかえって人気を集めた。著名な諷刺画家として、グランヴィル、トラヴィエス、そしてドーミエの名を逸することはできない。とりわけフィリポンによる西洋梨——七月王政下の国王ルイ・フィリップの戯画——は、諷刺画史上、報道の自由を象徴する逸話とあってよい。1835年9月の法律で廃刊に追い込まれた同紙が、今回、町田市立国際版画美術館蔵本を底本に復刻される。根本資料として活用したい。

